

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）

科目名	看護学概論	対象学生・時期	1年生・前期	
		講義時間（単位）	15時間（1）	
講師名	押尾知子（臨床経験6年・看護師）			
科目目標	1. 看護の対象としての人間を身体的・精神的・社会的統一体として理解する 2. 人間のライフサイクルにおける健康の意義について学ぶ 3. 看護の本質を理解し、総合保健医療体系の中で、看護の概念を明確にする 4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し看護活動のありかたを学ぶ 5. 看護の歴史を通して、現在の看護の位置づけ及び諸問題を理解する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	看護の本質および看護の概念	1. 看護の本質 2. 看護の役割と機能 3. 看護理論家の看護概念	講義	
2	看護の対象の理解	1. 人間のこころとからだ 2. 生涯発達し続ける存在としての人間		
3	国民の健康状態と生活	1. 健康とは 2. 国民の健康状態 3. 国民のライフサイクル		
4	看護の提供者	1. 職業としての看護 2. 看護職の資格・養成制度・就業状況 3. 継続教育とキャリア開発 4. 看護職の養成制度の課題		
5	看護における倫理	1. 職業倫理と看護倫理 2. 患者の意思決定支援と守秘義務 3. 倫理的ジレンマ		
6	看護提供のしくみ	1. サービスとしての看護 2. 看護提供の場とチーム医療 3. 継続看護 4. 看護をめぐる制度と施策 5. 看護サービスの管理 6. 医療安全と医療の質保証		
7	広がる看護の活動領域	1. 国際化と看護 2. 災害時における看護		
8	単位認定試験(45分)			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	・基礎看護学1 看護学概論 メディカ出版			
備考	<参考文献>			

科目名	共通基本技術		対象学生・時期	1年生・前期
			講義時間(単位)	30時間
講師名	①原口稔(臨床経験22年・看護師) ②金井千絵(臨床経験15年・看護師) ③山谷なぎさ(臨床経験22年・看護師)			
科目目標	1. 看護活動における基本的技術を理解する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	人間関係発展の技術	1. コミュニケーションの技術 1) コミュニケーションとは 2) 看護場面での効果的なコミュニケーション技術	講義	①
2		3) 対人関係の振り返り 4) 看護と人権尊重		
3	感染予防	1. 意義と基礎知識 1) 感染防止の基礎知識 2) 感染経路別予防策 3) 院内感染の防止	講義	②
		2. 標準予防策 1) 標準予防策の基礎知識 2) 対策の実際 (1)手指衛生 (2)個人防護用具		
		3. 感染経路別予防策 1) 感染経路別予防策の基礎知識 2) 接触予防策 3) 飛沫予防策 4) 空気予防策		
4		4. 手指衛生 ラビング法・スクラブ法	演習	
5		5. 洗浄、消毒、滅菌 1) 洗浄、消毒、滅菌の基礎知識 2) 洗浄 3) 消毒と滅菌 6. 無菌操作 7. 感染性廃棄物の取り扱い 8. 針刺し防止策	講義	
6		9. 標準予防対策の実際 10. 無菌操作の実際	演習	
7				

8	安全確保	1. 安楽とは 2. 安楽の援助 1) 罨法 (1) 罨法とは (2) 罨法の目的と適応 (3) 罨法の種類 2) 安楽な体位の保持 (1) 基本的活動の基礎知識 ①姿勢と動作 ②良肢位 ③ポジショニング④ボディメカニクス (2) 体位の種類 (3) 対象患者にとっての安楽な体位と援助に必要な要素（援助を行う際の留意点） ①同一体位による弊害 ②安楽な姿勢と体位の保持	講義	③
9				
10		3. 体位変換の実際 1) 臥床患者の体位変換 (1) 技術の実際（ポジショニング含） ①水平移動：横方向、上方向 ②仰臥位から側臥位 ③仰臥位から端坐位、長坐位 2) 安楽な体位と援助に必要な要素	演習	
11	看護における観察・記録・報告	1. 看護記録・報告 1) 看護記録に関する法的規定 2) 看護記録の目的と意義 3) 看護記録の構成要素 4) 看護記録の種類 5) 看護記録の記載基準 6) 看護記録および診療情報の取り扱い 7) 看護学生の情報管理 8) 報告の方法と種類	講義	①
12				
13				
14	学習支援	1. 教育指導技術 1) 看護における教育的支援 2) 患者と家族のセルフケアを支援する看護活動 3) 看護における指導技術	講義 演習	
15				
16	単位認定試験（45分）			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	・基礎看護技術（WEB 動画付）南江堂 ・看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア			
備考				

科目名	日常生活の援助技術 I ~ V		対象学生・時期	1 年生・前期
			講義時間 (単位)	30 時間 (1)
講師名	①③大家枝利 (臨床経験 15 年・看護師) ②④市村清香 (臨床経験 25 年・看護師) ⑤金井千絵 (臨床経験 15 年・看護師)			
科目目標	1. 環境調整の意義を理解し、快適な療養環境を整えるための技術を習得する 2. 栄養状態を整える意義を理解し、対象の状態に適した食事援助の技術を習得する 3. 療養生活における衣服の機能を理解し、対象に適した衣服を整える援助技術を習得する 4. 身体の清潔を保つ意義を理解し、対象の状態に適した清潔保持の技術を習得する 5. 排泄を整える意義を理解し、対象の状態に適した排泄の援助技術を習得する 6. 休息の種類と意義を理解し、適切な睡眠・休息を促すための援助技術を習得する 7. さまざまな移動方法を理解し、対象の状態・状況に応じた安全・安楽な移動技術を習得する			
回数	主題	主な学習内容	講義形態	担当
1	環境	1. 療養生活の環境 1) 人間の健康と環境 2) 生活環境の調整 (温度、湿度、照度、騒音、換気、採光、臭気、プライバシー) 3) 病室環境 (1) 病室の構成 (2) 病院で働く人々 (3) 療養環境のアセスメント	講義	①
2		2. 療養環境の整備 1) ベッド周囲の環境整備 2) 臥床患者のリネン交換 (ベッドメイキング含む)	演習	
3	食事と栄養	1. 人間の健康と食事 1) 食事の意義 2) 健康な食生活 3) 栄養状態のアセスメント 4) 摂食能力および食欲、食に関する認識のアセスメント 5) 医療施設で提供される食事 (1) 食事の種類と形態 (2) 食事の提供方法 6) 食事の援助 (1) 経口的栄養摂取の援助 (2) 非経口的栄養摂取の援助	講義	②
4		2. 食事の介助 3. 嚥下訓練	演習	

5	清潔・衣生活	1. 身体の清潔の意義 1) 人間にとっての身体清潔の意義 2) 身体の清潔のための援助の必要性 2. 身体各部の清潔の援助方法 3. 療養生活における衣服の機能 1) 生理的・社会的・心理的意義 2) 病衣の種類と選び方 3) 心理的意義 4. 整容	講義	③
6		5. 清拭の援助の目的と基本動作 1) 援助の目的と基本動作の関連 2) 身体各部の清潔の援助方法 3) 手順と根拠 ①全身清拭 ②手浴 ③足浴 ④洗髪 ⑤陰部洗浄 ⑥口腔ケア ⑦整容	グループワーク	
7		6. 清拭の実際 1) 臥床患者の石鹸を用いた上半身清拭、 寝衣交換 2) 陰部洗浄	演習	
8				
9				
10	排泄	1. 人間の健康と排泄 1) 排泄の意義 2) 排泄行動のアセスメント 3) 対象の状態に応じた排泄の援助 (1) 自然な排泄を促す援助 (2) 対象の状態に応じた援助 (3) 排泄を促す医療処置を伴う援助 (4) 排泄物の観察	講義	④
11		2. 便器・尿器を用いた排泄の介助 1) 一時的導尿	演習	
12		2) 浣腸		

13	活動と休息	1. 人間の活動の意義とそのメカニズム 1) 生理的意義 2) 心理的意義 3) 社会的意義 4) 活動と運動のメカニズム 2. 活動・運動に対する援助 1) 床上運動 2) 立位・歩行 3) 移動・移送 (1) 車いす、ストレッチャーへの移乗、移送方法 ①車椅子の構造と点検方法、操作方法 ②ストレッチャーの構造と点検方法、操作方法 3. ヒトにおける休息・睡眠の意義とそのメカニズム 1) 休息とは 2) 睡眠とは 4. 休息・睡眠の援助方法 1) 休息の援助 2) 睡眠の援助	講義	⑤
14		5. 移乗、移送の実際 1) ベッド上から車いすへの移乗、移送 2) 車いすからベッドへの移乗	演習	
15		3) ベッドからストレッチャーへの移乗、移送 4) ストレッチャーからベッド上への移乗		
枠外	単位認定試験 (45 分)			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	・基礎看護技術 (web 動画付) 南江堂 ・看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア ・看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア			
備考				

科目名	日常生活援助技術演習	対象学生・時期	1年生・前期		
		講義時間(単位)	15時間(1単位)		
講師名	大家枝利(臨床経験15年・看護師)				
科目目標	1. 看護の必要性と根拠を明確にし、知識と統合し日常生活援助技術の基本を習得する 2. 基本技術(感染予防・安全・安楽を確保する技術など)を活用し、対象に適した日常生活援助技術を習得する				
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当	
1	入院患者の看護	1. 事例紹介(初めての入院) 2. スタンダードプリコーション 3. 療養環境の整備 (2人部屋 入院ベッド作成) 4. バイタル測定・観察 5. 医師の指示確認、安静度確認	演習		
2	検査入院中の患者の看護	1. 看護方針の確認 2. 看護方針を説明。看護・治療の協力を得る。 3. 安楽な体位の調整(体位変換) (ポジショニング) 4. 発熱、悪寒戦慄時の看護	グループ ワーク 演習		
3		1) 褥瘡 必要物品・体位・観察項目確認後 実施			
4	臥床患者の清潔保持への 援助	1. 援助計画作成			
5		2. 臥床患者の清拭、寝衣交換、シーツ 交換実施			
6					
7	検査のための移乗・移送	1. 車いすへの移乗 ボディメカニクスを活用する			
8	まとめ(45分)				
評価方法	課題				
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 基礎看護技術(WEB動画付) 南江堂 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア 				
備考					

科目名	フィジカルアセスメント		対象学生・時期	1年生・前期
			講義時間(単位)	30時間(1)
講師名	軽部太一(臨床経験15年・看護師)			
科目目標	1. 対象の健康状態について、身体的側面および心理・社会的側面から情報収集し総合的にアセスメントするための基本的知識と技術を習得する 2. 身体的側面についてはフィジカルイグザミネーション(身体診査)の基本技法を系統的に習得する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	フィジカルアセスメント 総論	1. フィジカルアセスメントとは 2. フィジカルアセスメントの目的 3. フィジカルアセスメントの基本技術 1) 面接・問診 2) 観察 3) 測定	講義	
2		4. フィジカルイグザミネーションの基本 1) 視診 2) 触診 3) 打診 4) 聴診	講義	
3	バイタルサイン	1. バイタルサインの測定とアセスメント 1) 意識 2) 体温 3) 呼吸	講義	
4		4) 脈拍 5) 血圧	講義	
5		2. バイタルサイン測定の実際	トレーニング	
6				
7	呼吸器系のフィジカルアセスメント	1. 呼吸器系の構造と機能 2. 呼吸器系のフィジカルアセスメント 1) 問診 2) 肋骨下角・前後径 3) 胸郭可動性 4) 音声振盪 5) 横隔膜位置推定 6) 呼吸音 7) パルスオキシメーター	講義	
8	循環器系のフィジカルアセスメント	1. 循環器系の構造と機能 2. 循環器系のフィジカルアセスメント 1) 問診 2) 中心静脈圧の推定 3) 頸動脈の触診 4) 心尖拍動 5) アレンテスト 6) 爪床圧迫テスト 7) ホーマンズ徴候 8) 心音	講義	
9	胸部の聴診	1. 呼吸音と心音の聴診	演習	
10	腹部・消化器系のフィジカルアセスメント	1. 腹部・消化器系の構造と機能 2. 腹部・消化器系のフィジカルアセスメント 1) 問診 2) 腹部の視診 3) 腸蠕動音 4) 腎臓の叩打診 5) ロブシング・ローゼンシュタイン徴候 6) 反跳痛・筋性防御 7) 肝臓の触診 8) 腹水の観察	講義	

11	腹部・消化器系の聴診・触診・打診	1. 腸蠕動音の聴診 2. 腹部の打診 3. 腹部の触診	演習
12	筋・骨格系のフィジカルアセスメント	1. 筋・骨格系の構造と機能 2. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント 1) 徒手筋力検査 2) 関節可動域検査	講義
13	神経系のフィジカルアセスメント	1. 神経系の構造と機能 2. 神経系のフィジカルアセスメント 1) 問診 2) 感覚機能 3) 対光反射 4) バレー徴候 5) ロンベルク試験 6) 小脳機能検査 (1) 指鼻試験 (2) 指鼻指試験	講義
14	特殊感覚のフィジカルアセスメント	1. 特殊感覚の構造と機能 2. 特殊感覚のフィジカルアセスメント 1) 問診 2) 目 3) 耳 4) 鼻 5) 舌	講義
15	単位認定試験 (45分) まとめ		
評価方法	筆記試験		
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護学1 基礎看護技術I コミュニケーション/看護の展開/ヘルスアセスメント メディカ出版 ・看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア 		
備考			

科目名	フィジカルアセスメント演習		対象学生・時期	1年生・前期	
			講義時間(単位)	15時間(1)	
講師名	軽部太一(臨床経験15年・看護師)				
科目目標	3. 具体的な事例について臨床判断に必要なフィジカルアセスメントの知識と技術を統合し習得する				
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当	
1	脈拍・血圧の測定	1. 脈拍・血圧測定のタスクトレーニング	演習		
2	症状・徴候からのフィジカルアセスメント	2. 息苦しい時のフィジカルアセスメント	個人ワーク 講義		
3			演習		
4		3. 腹痛時のフィジカルアセスメント	個人ワーク 講義		
5			演習		
6		4. 胸痛時のフィジカルアセスメント	個人ワーク 講義		
7			演習		
8		まとめ45分			
評価方法	課題				
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・看護がみえる Vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア ・基礎看護学2 基礎看護技術I コミュニケーション/看護の展開/ヘルスアセスメント メディカ出版 				
備考					

科目名	看護の展開方法		対象学生・時期	1年生・前期
			講義時間（単位）	30時間（1）
講師名	押尾知子（臨床経験6年・看護師）			
科目目標	1. 対象の持つ健康上の問題を明らかにして、その問題を解決するための系統的で意図的な思考過程としての看護の展開方法を理解する			
回数	主題	主な学習内容		授業形態
1	看護過程とは	1. 看護過程と問題解決法 2. 看護過程とクリティカルシンキング 3. 看護過程とリフレクション 4. 看護過程と看護理論の関係		講義
2	看護診断	1. 看護診断とは		
3		2. 看護診断の構造の理解		
4	情報収集	1. 情報源 2. 情報の種類 1) 主観的情報 2) 客観的情報 3. 情報の収集方法 1) インタビューによる情報収集 2) 観察による情報収集 3) フィジカルイグザミネーションによる情報収集 4) すでにある情報源の活用やカンファレンスでの情報収集 4. 情報に対する倫理的配慮		
5	看護過程の構成要素	1. アセスメント（情報の解釈・判断） 1) ゴードンの機能的健康パターンを用いた考え方		
6				
7		2. 関連図		
8		3. 看護診断（問題の抽出） 4. 優先順位 1) 目標と期待される成果		
9		5. 計画（具体策の立案） 6. 実施 7. 評価		
10	事例演習	（成人・糖尿病）を用いた看護過程の展開		
11				
12				
13				
14				
15				
評価方法	課題			
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護技術（web 動画付） ・根拠がわかる 疾患別看護過程 ・看護診断ハンドブック 第12版 ・看護過程の解体新書 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査 		<ul style="list-style-type: none"> 南江堂 南江堂 医学書院 学研 医学書院 	
備考	<参考文献>			

科目名	診療に伴う技術	対象学生・時期	1年生・後期	
		講義時間(単位)	15時間(1単位)	
講師名	山谷なぎさ(臨床経験22年・看護師)			
科目目標	1. 診療と検査の意義・目的を理解し診療・検査・処置をうける対象への看護技術を習得する 2. 薬物を取り扱う際のチームにおける看護師の責任と役割を理解する 3. 薬物療法の意義・目的を理解し、薬物療法を受ける対象への看護技術を習得する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	診療の補助技術と看護師の役割	1. 検査・処置の意義 2. 検査・処置における看護師の役割 1) 検査・処置の説明 2) 苦痛の軽減 3) 危険の察知と対処 4) 医師や技師との連携 3. 検体の取り扱い 1) 6R 2) 必要量 3) 保存方法 4) 時間 4. 血液検査の看護 1) 採血法の基礎知識 (1) 血液検査の種類 (2) 採血に適した静脈の位置と名称 (3) 注射薬の取り扱い 2) 安全な採血 (1) 採血時の合併症 (2) 安全安楽な採血方法と根拠	講義	
2	静脈血採血の実際	1. シリンジを用いた静脈血採血 2. 採血ホルダーを用いた静脈血採血	演習	
3	薬物療法時の看護師の役割	1. 正しい与薬 1) 与薬の目的 2) 与薬の基礎知識 3) 看護師の役割 4) 薬剤・患者確認 2. 薬の管理 1) 毒薬 2) 劇薬 3) 麻薬 4) 血液製剤 5) 抗悪性腫瘍薬	講義	

	与薬の方法	1. 経口与薬・口腔内与薬 1) 経口与薬・口腔内与薬の適応 2) 内服薬の種類 3) 与薬方法 4) 服薬支援 2. 吸入 3. 点眼 4. 点鼻 5. 経皮的与薬 6. 直腸内与薬 7. 注射 1) 注射の種類 2) 注射器・注射針の種類と選択 8. 輸血管理 1) 輸血の目的 2) 輸血の基礎知識 3) 輸液時の看護師の役割 4) 輸血時の看護		
4		9. 注射の方法 1) 皮内注射 2) 皮下注射 3) 筋肉注射 4) 静脈内注射 5) 点滴静脈内注射 10. 注射の準備 1) ミキシング 2) プライミング 3) 三方活栓の取り扱い 4) 点滴管理：滴下調節、観察		
5		10. 筋肉内注射 1) アンプルからの吸い上げ 2) 筋肉注射モデルを用い上腕（三角筋）への注射実施 3) 使用物品（感染物）の取り扱い	演習	
6		11. 点滴静脈内注射 1) バイアルからの吸い上げ 2) ミキシング 3) プライミング 4) 点滴静脈内注射モデルを用い、翼状針による点滴静脈内注射の実施 5) 刺入部の固定・滴下速度調節 6) 使用物品（感染物）の取り扱い		
7				
8	単位認定試験（45分）			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	・基礎看護技術（web 動画付） 南江堂 ・看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア ・看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア			
備考				

科目名	診療に伴う技術演習		対象学生・時期	1年生・後期	
			講義時間(単位)	15時間(1単位)	
講師名	山谷なぎさ(臨床経験22年・看護師)				
科目目標	1. 共通基本技術を活用し、安全で確実な与薬の基本技術を習得する 2. 対象の健康状態に応じた援助技術の変化を理解し輸液の基本技術を習得する				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	体調変化が見られた患者の看護	1. 事例紹介 2. バイタル測定・観察 3. 医師の治療方針の確認(検査による精査) 1) 検査と発熱による検査・治療の必要性 2) 検査の指示受け (1)検査目的・方法の確認 3) 患者の健康状態と検査項目の関連		演習	
2		4. 静脈血採血検査実施 1) 真空採血管による採血実施			
3	薬物療法と看護	1. 患者の健康状態と検査結果の関連 1) 検査結果と身体状態のアセスメント 2. 医師の治療方針の理解 1) 医師の治療方針の指示確認 2) 薬物療法の目的、方法、副作用の理解 3. 薬物療法時の看護計画作成		グループワーク	
4	援助計画表を基に模擬患者への与薬	1. 医師の治療方針実施 1) 薬剤準備(アンプル) 2) 筋肉内注射 2. 薬剤の効果・副作用の観察・報告		演習	
5		3. バイタルサイン測定 1) 患者の状態のアセスメント 4. 医師の治療方針実施(点滴静脈内注射) 1) 薬剤準備(バイアル) 2) ミキシング 3) プライミング			
6		4) 点滴静脈内注射の実施 5) 滴下調節 6) 薬剤の効果・副作用の観察・報告			
7		5. 医師の指示実施 1) 輸液ポンプ 2) 輸液ポンプ使用時の観察 3) 排泄・検査のため輸液ポンプから自然滴下へ変更時の調節 4) 自然滴下から輸液ポンプへの調節 5) 薬剤の効果・副作用の観察・報告			

8	まとめ (45分)		
評価方法	課題		
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎看護技術 (WEB 動画付) 南江堂 ・ 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア ・ 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア ・ 系統看護学講座 別冊 臨床検査 医学書院 		
備考			

科目名	看護研究		対象学生・時期	2年生・前期
			講義時間(単位)	15時間(1)
講師名	押尾知子(臨床経験6年・看護師)			
科目目標	1. 看護研究の意義と必要性を学び、研究方法の基礎を理解する 2. 研究クリティークの方法を理解し、適切な文献の活用ができる 3. 自己の看護実践の意味づけができる			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	研究と実践活動	1. 事例研究とは 2. 実践の中から発見する研究課題	講義	
	研究の種類と特徴	1. 研究の問いと研究デザインの関係 2. 研究デザインの種類 3. 質的研究と量的研究		
2	事例研究の重要性	1. 看護実践と研究 2. 事例研究の特徴と留意点		
3	事例研究の進め方	1. 課題の見つけ方 2. 研究テーマの絞り込み(研究計画書の作成) 3. データ収集 4. データ分析・結果のまとめ方 5. 研究成果の発表		
4	研究成果の活用と実践	1. 看護研究のクリティーク 2. ケーススタディ作成	個人ワーク	
5				
6				
7		3. 論文発表	発表	
8 (45分)				
評価方法	課題			
使用テキスト	・基礎看護学4 看護研究 メディカ出版			
備考	<参考文献> 黒田裕子の看護研究 step by step 第5版 医学書院			

科目名	成人看護学演習		対象学生・時期	1年生・後期	
			講義時間(単位)	30時間(1)	
講師名	軽部太一(臨床経験15年・看護師)				
科目目標	1. 成人期を対象とした看護過程の展開ができる 2. 成人期の看護に必要な看護技術を習得する				
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当	
1	看護過程の展開 手術を受ける肺がん 患者の看護過程 (急性～回復期)	1. 授業オリエンテーション 2. 肺がん術後患者の事例提示 3. ボディチャートの作成	講義 個人ワーク		
2		3. ボディチャートの共有	講義 グループワーク		
3		4. 肺がん術後患者のアセスメントのポイント 1) 術前・術中のアセスメント 2) 手術侵襲と生体の反応 3) 創傷治癒	講義		
4		5. 肺がん術後患者のアセスメント	個人ワーク		
5		5. 肺がん術後患者のアセスメント	個人ワーク		
6		5. 肺がん術後患者のアセスメントの共有	グループワーク 講義		
7		6. 肺がん術後患者の全体・関連図	個人ワーク		
8		6. 肺がん術後患者の全体・関連図の共有 7. 肺がん術後患者の看護問題・優先順位	グループワーク 講義		
9		7. 肺がん術後患者の看護問題・優先順位の共有	グループワーク 講義		
10		8. 肺がん術後患者の看護計画	個人ワーク		
11		8. 肺がん術後患者の看護計画の共有	グループワーク 講義		
12		手術を受ける肺がん 患者の看護技術演習	9. 肺がん術後患者の看護技術 1) 心電図 2) パルスオキシメーター 3) 輸液・シリンジポンプ 4) 酸素療法 5) 体位ドレナージ		グループワーク シミュレーション
13					
14					
15		まとめ	10. 看護過程・看護技術演習のまとめ		グループワーク 講義
評価方法	課題				
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・成人看護学 4 周術期看護 メディカ出版 ・疾患と看護 1 呼吸器 メディカ出版 ・基礎看護学 2 基礎看護技術 I コミュニケーション/看護の展開/ヘルスアセスメント メディカ出版 ・看護過程の解体新書 学研 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 ・看護診断ハンドブック 第12版 医学書院 ・根拠がわかる症状別看護過程 南江堂 ・看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア ・看護がみえる vol.2 臨床看護技術 メディックメディア 				
備考					

科目名	老年看護方法論 I		対象学生・時期	1年生・後期
			講義時間(単位)	15時間(1)
講師名	① ②金井千絵(臨床経験15年・看護師)			
科目目標	1. 高齢者の加齢に伴う健康状態や日常生活能力をアセスメントする方法を理解する 2. 高齢者の健康障害の特徴を理解する 3. 加齢に伴う症状に対する援助方法について理解する 4. 治療を受ける高齢者とその家族への看護を理解する 5. 高齢者とその家族の健康・自立を支えるための基礎的援助方法を理解する 6. 高齢者とその家族の自立を支える日常生活の援助を理解する 7. 高齢者に特徴的な疾患について、家族を含めた看護を理解する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	健康障害のある高齢者の特徴	1. 健康障害のある高齢者の特徴 1) 高齢者に起こりやすい疾患の特徴 2) 高齢者に多く見られる症状と現れ方 3) 高齢者の健康のアセスメントと観察の視点	講義	①
2		2. 高齢者体験	演習	②
3	自立を支える日常生活の援助	1. 自立を支える日常生活の援助(日常生活能力のアセスメントと援助の方法) 1) 食生活と栄養 2) 活動・運動とレクリエーション 3) 休息と睡眠 4) 排泄 5) 清潔・身だしなみ 6) 性生活 7) 住環境 8) 対人関係	講義	①
4	加齢に伴う症状と看護	1. 加齢に伴う症状と看護 1) 痛み 2) 掻痒感 3) 不眠 4) 痺れ 5) 冷え 6) 便秘・尿失禁 7) 振戦 8) 脱水 9) うつ 10) 難聴 11) 視力障害		
5	寝たきりの防止と自立支援	1. 寝たきりの防止と自立支援 1) 持てる力(患者の強み・患者にできること)に目を向けた支援 2) 生活と自己管理の調整 2. 身体可動性障害の高齢者の看護		
6	治療を受ける高齢者の看護	1. 治療を受ける高齢者の看護 1) 手術療法時の看護 2) リハビリテーション時の看護 3) 薬物療法時の看護		

7	終末期の家族のニーズに充足の関わり	1. 終末期の家族のニーズに充足の関わり (予期悲嘆、グリーフケア等) 1) デスカンファレンス 2) 看取の場(緩和ケア病棟、在宅)		
8	単位認定試験(45分)			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 老年看護学 2 高齢者看護の実践 メディカ出版 ・ 根拠がわかる 症状別看護過程 南江堂 			
備考	<参考文献>			

目名	老年看護学演習	対象学生・時期	2年生・前期	
		講義時間(単位)	15時間(1)	
講師名	金井千絵(臨床経験15年・看護師)			
科目目標	1. 高齢者を対象とした看護過程の展開ができる 2. 高齢者およびその家族に必要な看護技術を習得する			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	看護過程の展開	1. 高齢者の看護過程の展開 2. 回復期にある高齢者の看護事例紹介	講義	
2	(事例) 大腿骨頸部骨折を患った高齢者	1. 意図的な情報収集	個人ワーク	
3		2. 高齢者のアセスメント 3. 関連図		
4		4. 仮診断 5. 看護診断 6. 優先順位決定の理由		
5		7. 計画立案 アウトカムの設定、 高齢者のもつ力		
6		8. 評価・修正	学習成果の共有 講義	
6		9. 回復期にある高齢者の看護の まとめ		
7	指導技術	1. 義歯の取り扱い、口腔ケア	演習	
8	単位認定試験 まとめ(45分)			
評価方法	課題			
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・老年看護学1 高齢者の健康と障害 ・老年看護学2 高齢者看護の実践 ・疾患と看護7 運動器 ・根拠がわかる 症例別看護過程 ・看護診断ハンドブック 第12版 ・系統看護学講座 別巻 臨床検査 ・看護過程の解体新書 		<ul style="list-style-type: none"> メディカ出版 メディカ出版 メディカ出版 南江堂 医学書院 医学書院 学研 	
備考	学習の進度により、授業形態および授業順序等を変更する可能性あり。			

科目名	小児看護学演習		対象学生・時期	2年生・前期	
			講義時間(単位)	30時間(1)	
講師名	① ②大家枝利(臨床経験15年・看護師)				
科目目標	1. 子どもの特徴を踏まえ事例を通して看護過程が展開できる 2. 子どもに対する基本的看護技術の習得ができる				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	健康障害をもつ小児の事例について看護過程の展開	1. ガイダンス 1) 学習目標・内容・方法について 2) 小児の看護過程の特徴について		講義 演習	①
2		2. 受け持ち患児の疾患の病態生理 1) 事例紹介 2) 情報の整理と分析			
3		3. 情報の整理と分析 1) データベース 2) ゴードン11機能パターン アセスメント			
4		4. 関連図(全体像)			
5		5. 看護診断、優先順位の決定			
6		6. 看護計画立案			
7		7. 看護計画発表			
8		評価 まとめ			
9	小児看護に必要な援助技術	1. コミュニケーション技術 1) 発達段階に応じたコミュニケーション 2) 発達に応じた説明と同意 検査時のプレパレーション実施			②
10		2. 安全・安楽を考慮した行動制限と援助技術 1) 乳幼児ベッドの使用法 2) 行動制限用具の使用法、処置時の固定法、点滴・輸液の管理とシーネ固定			
11		3) 検査(腰椎・骨髄穿刺)・処置時(吸引)の援助と固定法			
12		4) 与薬(内服、座薬、吸入) 水薬の与薬法			
13		3. 小児の救急救命の技術 1) 小児の意識レベル観察 2) 小児の一次救命処置 3) 小児の胸骨圧迫、用手気道確保、 気道内除去法			
14					
15	単位認定試験(45分) まとめ				
評価方法	課題、筆記試験				
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・小児看護学1 小児の発達と看護 メディカ出版 ・小児看護学2 小児看護技術 メディカ出版 ・小児看護学3 小児の疾患と看護 メディカ出版 ・看護診断ハンドブック 第12版 医学書院 				

	・根拠が分かる 症状別看護過程 ・看護過程の解体新書	南江堂 学研
備考	<参考文献>	

科目名	母性看護学概論		対象学生・時期	1年生・後期	
			講義時間(単位)	15時間(1)	
講師名	山谷なぎさ(臨床経験22年・看護師)				
科目目標	1. 母性看護の概念を理解する 2. 母性に関する法律について理解する 3. 人間の性と生殖について理解する 4. ライフサイクル各期における女性の健康について理解する				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	母性看護の概念	1. 母性とは 2. 母子関係 3. 家族の発達、機能 4. ヘルスプロモーション		講義	
2	母性看護と法	1. 地域における子育て支援 2. 母子保健統計からみた動向 3. 母性を保護する法律と制度 4. 周産期医療システムと母子保健施策			
3	母性保健の動向	1. わが国の母性看護の変遷 2. 母性看護の現状			
4	人間の性と生殖	1. セクシュアリティ 1) セクシュアリティ 2) リプロダクティブヘルス/ライツ			
5		2. リプロダクティブヘルスケア 1) 家族計画 2) 性感染症とその予防 3) 喫煙と女性の健康 4) 人工妊娠中絶と看護 5) 性暴力を受けた女性への看護 6) 児童虐待と看護 7) 国際化社会と看護			
6	ライフサイクル各期の健康課題と援助	1. 形態・機能の変化 2. ライフサイクル各期の健康課題と援助 1) 思春期 2) 成熟期 3) 更年期 4) 老年期 3. 家族の発達段階と家族看護			
7	母性看護における倫理と課題	1. 母性看護における倫理的課題			
8	単位認定試験(45分)				
評価方法	筆記試験				
使用テキスト	・母性看護学1 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版				
備考	<参考文献> 国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会				

科目名	母性看護学演習		対象学生・時期	2年生・後期	
			講義時間(単位)	30時間(1)	
講師名	山谷なぎさ(臨床経験22年・看護師)				
科目目標	1. 母性の対象となる人々の健康の保持・増進に向けた支援について理解する 2. 母性看護に必要な援助技術が習得できる				
回数	主題	主な学習内容		授業形態	担当
1	マタニティサイクルの対象者への看護過程の展開(妊娠期)	1. 妊娠期のアセスメント 1) 妊婦のアセスメント		講義 演習	
2		2) 胎児のアセスメント			
3	母性看護に必要な援助技術(妊娠期・分娩期)	1. 妊娠期の援助技術 1) 妊婦体操 2) 腹囲・子宮底の測定 3) レオポルド触診法・胎児心音聴取			
4		2. 分娩期の援助技術 1) 呼吸法・産痛緩和とマッサージ法			
4	マタニティサイクルの対象者への看護過程の展開(分娩期・産褥期・新生児期)	1. 分娩期のアセスメント			
5		2. 産褥期のアセスメント			
6		3. 新生児のアセスメント			
7		4. 産褥期の計画立案と評価(正常褥婦)			
7		5. 産褥期の計画立案と評価(正常新生児)			
8	母性看護に必要な援助技術(産褥期・新生児期)	1. 産褥期の援助技術 1) 産褥体操 2) 子宮復古状態の観察			
9		2. 新生児の援助技術 1) 抱き方、衣服交換、おむつ交換			
10		2) 身体計測、バイタルサイン測定 外表所見の評価、原始反射の評価			
11		3) 沐浴、ドライテクニック			
12					
13	マタニティサイクルの対象者への看護過程の展開(産褥期)	1. 退院後の生活に向けた看護 1) 退行性変化の促進			
14		2) 進行性変化の促進 3) 育児技術の習得			
15		4) 指導方法の検討 (1) 健康の保持・増進 (2) 母子相互作用			
評価方法	課題				
使用テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 母性看護学1 概論・リプロダクティブヘルスと看護 母性看護学2 母性看護の実践 母性看護学3 母性看護技術 看護過程の解体新書 根拠がわかる症状別看護過程 		<ul style="list-style-type: none"> メディカ出版 メディカ出版 メディカ出版 学研 南江堂 		
備考	<参考文献> <ul style="list-style-type: none"> 写真でわかる母性看護技術(改定版) インターメディカ 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院 根拠がわかる母性看護過程 南江堂 				

授業科目	精神看護学概論	対象学生・時期	1年生・後期	
		講義時間(単位)	30時間(1)	
担当者	原口稔(臨床経験22年・看護師)			
科目目標	1. 精神看護の変遷を知り、精神看護学の概念が理解できる 2. ライフサイクルと精神の発達危機について理解できる 3. 精神看護の対象及び看護の目的が理解できる 4. 精神看護におけるリスクマネジメントが理解できる			
回		授業計画・内容	授業形態	担当
1	精神の健康	1. 精神的健康とは 2. 精神看護学の基本的な考え 3. 社会の偏見-スティグマ-	講義	
2	脳とこころ	1. フロイト 深層心理学と自我心理学 2. マズロー欲求5階層 3. ストレスとコーピング		
3	防衛機制	1. 防衛機制とは 2. 不安と防衛機制 3. 代表的な防衛機制危機について		
4	危機	1. 危機への介入 2. 災害時の心理的危機 1) 急性ストレス障害 2) 心的外傷後ストレス障害 3. フィンクの危機理論 4. キューブラロスの死の受容段階 5. アギュレラの危機の問題解決モデル		
5	人格の発達と情緒体験	1. メラニーライン対象関係論 2. ウィニコット母子関係の発展 3. ジョンボルビー愛着理論		
6	人生各期の発達	1. エリクソンのライフサイクル理論 2. 各期の発達段階		
7	家族と精神の健康	1. 家族とは 2. 家族システム 1) 夫婦関係 2) 親子関係		
8	暮らしの場と精神の健康	1. 集団とは 2. 職場・仕事と精神の健康 1) メンタルヘルス 2) ハラスメン		
9		3. 学校と精神の健康 1) 不登校 2) いじめ		
10	現代社会とこころの問題	1. 自殺 1) 自殺の要因・背景 2) 自殺対策基本法 2. 自傷行為 3. 引きこもり 4. 児童虐待 5. ドメスティックバイオレンス 6. 心身症 7. 依存症		

11	精神保健医療福祉の歴史	<ol style="list-style-type: none"> 1. 西欧における歴史 <ol style="list-style-type: none"> 1) 古代 2) 中世 3) 近代 4) 治療法・治療史 2. 日本における歴史 <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神病者監護法 2) 精神病院法 3) 精神衛生法 4) 神保健法 5) 障害者基本法 6) 障害者総合支援法 		
12	精神保健福祉法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健福祉センター 2. 精神医療審査会 3. 精神保健指定医 4. 精神科病院 5. 入院形態 6. 精神科病院における処遇等 7. 神障害者保健福祉手帳 		
13	看護師のストレスマネジメント	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師の経験するストレス 2. 精神科で働く看護師のストレス 3. ストレスマネジメント 4. 専門看護師・認定看護師 		
14	看護の倫理と人権擁護	<ol style="list-style-type: none"> 1. 強制入院・身体的拘束について <ol style="list-style-type: none"> 1) ディベート的ディスカッションを行う 	グループ ワーク 講義	
15	単位認定試験 (45分) まとめ			
評価方法	筆記試験			
使用テキスト	・精神看護学1 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版			
備考				

授業科目	精神看護学演習		対象学生・時期	1年生・後期	
			講義時間(単位)	30時間(1)	
担当者	① ② 原口稔(臨床経験22年・看護師)				
科目目標	1. 精神看護の基本技法を学び、対象理解及び援助に必要な働き方を理解する (プロセスレコード) 2. 精神に障害のある対象の看護過程が展開できる 3. 対象との係わりについて振り返り方法を理解する 4. 精神看護に特有な援助技術を理解する				
回	主題	授業計画・内容		授業形態	担当
1	プロセスレコード	1. プロセスレコードとは		講義 個人ワーク グループ ワーク	①
2		1) プロセスレコードの書き方			
3		2) プロセスレコードの読み方			
4		3) プロセスレコードによる振り返りの実際			
5					
6	情報の整理	1. 事例：統合失調症(慢性期)の患者の看護			②
7		1) 事例紹介 2) 情報の整理 3) 情報整理の視点、S・Oデータの整理			
8	アセスメント	1. 各パターンに沿ったアセスメント			
9		2. アセスメント内容についてのディスカッション			
10					
11	全体像の整理	1. 関連図の作成による全体像の整理			
12		2. GWによる関連図作成・発表			
13	看護診断・優先順位の決定	1. 看護問題(看護診断)の明確化と優先順位の決定 2. 優先順位と根拠についてディスカッション			
14	看護計画の立案	1. 個別性を踏まえた具体策の立案 1) 患者の健康的な側面 2) 強みを活かした具体策 2) セルフケアへの支援 3) 地域生活に向けての支援			
15	事例における看護診断と具体策	1. 発表(看護診断・優先順位、具体策) 2. まとめ 1) アセスメントの視点に基づいた情報の分析			
評価方法	プロセスレコード、課題				
使用テキスト	・精神看護学1 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ・精神看護学2 精神障害と看護の実践 メディカ出版 ・看護診断ハンドブック 第12版 医学書院 ・看護過程の解体新書 学研 ・根拠がわかる 症状別看護過程 南江堂				
備考					

科目名	臨床看護技術演習	対象学生・時期	2年生・後期	
		講義時間(単位)	30時間(1単位)	
講師名	軽部太一(臨床経験15年・看護師)			
科目目標	1. 複合的な条件の事例を予測性・個別性をもってアセスメントし実践できる能力を習得する 2. 卒業時の技術到達度をふまえて自己の看護技術の達成状況と課題を明確にする			
回数	主題	主な学習内容	授業形態	担当
1	同一患者の多重課題	1. 同一患者の優先順位 1) 優先順位の考え方 (1) マズローの欲求5段階説 (2) 計画の順序 (3) 報告・連絡・相談 2) 事例提示 3) 事例分析 (1) 対象理解 (2) 検査・治療・看護	講義	
2		4) 計画立案	個人ワーク	
3		5) 計画の検討	グループワーク	
4		6) 事例のシミュレーション	シミュレーション	
5		7) 振り返り	グループワーク	
6	複数患者の多重課題	1. 複数患者の多重課題 1) 複数患者の多重課題への対処 (1) 多重課題のパターン (2) 多重課題の回避と対処 (3) 緊急度と重症度 (4) 多重課題対処の5つの視点 (5) 多重課題に対応する能力の身につけ方 2) 事例提示	講義	
7		3) 事例分析 (1) 対象理解 (2) 検査・治療・看護 4) 計画立案	個人ワーク	
8		5) 計画の検討	グループワーク	
9		6) 事例のシミュレーション	シミュレーション	
10		7) 振り返り	グループワーク	
11	臨床判断	1. 臨床判断モデル 1) タナーの臨床判断	講義	
12	12 誘導心電図	1. 12誘導心電図 1) 計測の実際	演習	
13				
14	点滴静脈注射	1. 点滴静脈注射	演習	

